

第2回 ミサワパーク東京、三菱地所世田谷ハウス

住環境のみどりから東京のエコロジカルネットワークを広げる

1 日時

令和元年 11月11日（月曜日）13:00～16:15（受付開始 12:40）

2 会場及び講習内容

(1) 緑地概要説明

ミサワパーク東京 ホール（東京都杉並区高井戸東2-4-5）

(2) 現地講習（ミサワパーク東京から世田谷ハウスまではマイクロバス移動）

ミサワパーク東京（同上）

世田谷ハウス（東京都世田谷区）

※講習終了後、世田谷ハウスから小田急線千歳船橋駅までバスにてお送りします。

3 定員

25名

4 雨天時

少雨決行。大雨時は、ミサワパーク東京ホールにて緑地概要説明等を実施。

<現地講習先 緑地紹介>

ミサワパーク東京

ミサワホームでは、住宅地の庭を通じて植物や生きもの大切さやつながりを体感できるデザイン手法「GDD（グリーン・ドット・デザイン）」により、庭のみどりを地域のみどりとなげ、より広範囲での生物多様性保全やみどりの質の向上に寄与することを目指しています。

住宅展示場「ミサワパーク東京」では、GDDを採用し、地域の植生との連続性や生物多様性に配慮したエクステリアの設計を行いました。環境調査の結果をもとに、ケヤキの既存樹木を残しながら、在来種を中心に鳥類の食餌木を数多く植栽しています。毎年実施している生きもの調査では、敷地内の生きもの種数の大幅な増加が確認されるなど、「高井戸の貴重な資源」として地域の生態系に貢献する効果が現れています。



世田谷ハウス

三菱地所レジデンスでは、自社マンションにおいて生態系に配慮した植栽計画を行い、マンションのみどり（点）と周辺のみどりをつないで“面”に波及させる取組「BIONET INITIATIVE（ビオ ネット イニシアチブ）」を実践しています。

世田谷ハウスは、生物多様性保全の取組について、効果や課題を抽出する実験の場です。ここで得られた失敗例を含む多くのノウハウは、三菱地所グループが開発・運営する集合住宅等において、外構・緑地づくりに活用しています。また、居住者と共生できる地域に根差した植生の創出、外来種対策や地中の小動物に対する配慮などの工夫を積極的に取り入れて、情報発信を行う「モデル庭園」でもあります。実験と検証を繰り返しながら、生物多様性と住環境の快適性の両立を模索しています。



集合場所（雨天時も同じ）

ミサワパーク東京

（東京都杉並区高井戸東2-4-5）

- 京王井の頭線「高井戸」駅

徒歩 8分

- 京王線「八幡山」駅

徒歩 15分

